地質ニュース654号，16－17頁，2009年2月
Chishitsu News no.654, p.16－17, February, 2009

学生パワーと「地質の日」

大 河 内　誠[1)]

1. はじめに

2007年に「地質の日」が制定され，これを記念し，2008年5月10日に全国で様々な地質に関するイベントが実施された．新潟市においても，「地質の日」制定記念イベント実行委員会（委員長：宮下純夫．新潟大学理学部，教育学部，災害復興センター，新潟県立自然科学館，NPO法人ジオプロジェクト新潟，地学団体研究会新潟支部が連携したイベント実行委員会）を立ち上げ，新潟大学理学部を会場とし「サイエンスフェスティバル－化石やきれいな石にさわろう－」を開催した．当日は約450人が会場に詰めかけ，イベントは大盛況であった（写真1，2，3）．

イベントの準備・運営では，実行委員会を構成するそれぞれの組織が連携することにより，個々の経験が相乗的に生かされた．また，新潟市西区役所と連携することによって，区内の小学校を対象に1万枚のビラを配布することができ，これが大きな宣伝効果となった．このように運営面では，大学内外の組織との連携が大きな力となった．

一方，今回のイベント運営には，学生層の活躍が不可欠であった．当日の展示ブースは，自然科学館，大学などの企画とともに，地質科学科の学生の自主ゼミがその多くを担っていた．

イベントの内容，参加者の感想等については，既に地質学会ニュース誌や地質学会秋田大会で報告しているので，本稿では，展示活動の主体となった学生の活動について報告したい．

写真2　砂の粒度表つくりの状況．

写真1　化石のクリーニングの状況．

写真3　地球パズルの説明と展示．

1）特定非営利活動法人 ジオプロジェクト新潟
950-2181 新潟市西区五十嵐二の町8050 新潟大学理学部内

キーワード：「地質の日」，学生，自主ゼミ，普及イベント

2. 新潟大学地質科学科学生の自主ゼミ

新潟大学地質科学科の自主ゼミは，教職員の発案ではなく，学生自らが，それぞれの興味に基づき立ち上げ・組織化されたものである．これは1962年に始まり，現在に至っている．ゼミの内容・構成は，長年継続しているものもあるが，その時代の学生の意見・希望により変化・発展し，現在は7つのゼミが活動している．この中で，専門の学習を実施するとともに，運営面では日常的に議論を行い，ゼミの方向性を検討するといったことがなされている．

一方，教員，退職教員，本学OBの日常的な協力・支援も見逃せない．彼らは決して強制的な状況を作ることなく，あくまで学生の自主性を重んじつつ，活動場所の提供や時々のテーマの講師を引き受けるなど，さりげない形で学生の活動をバックアップし，共に活動を行っている．

3. 地質の日イベントへの流れ

「地質の日」の企画にあたって，イベント実行委員会は，委員会内での企画・展示計画立案とともに，各自主ゼミへの参加依頼を行った．

その依頼を受け，各ゼミ内でイベント参加の意志決定，展示内容等が検討され，立案した企画をイベント実行委員会へ提案するといった流れで準備が進められた．

その後，自主ゼミ長会議を中心に企画や会場スペースのレイアウトなど詳細検討が行われた．イベント実行委員会は，会場確保，宣伝，全体運営等を分担し，学生をサポートする形で，当日のイベント実施に至っている．

上記の流れは，短時間（発案は3月）の動きであったにも関わらず，比較的スムーズに進められた．これは，日常的に自主活動を実施している学生とこれをバックアップし，ともに活動する教員，退職教員，OBといった関係がすでに成立していたことが大きい．

4. むすび

前述のように新潟大学理学部で実施した「地質の日」のイベントでは，学生層の自主ゼミが大きな役割を果たした．この組織は，このイベント時のためだけに結集したものではなく，日常的に活動が定着していたものである．この点でいえば，今回の成果は，長年にわたり日頃から“自主的に考え，学ぶ”“ともに議論しあう”という姿勢が，自主ゼミ活動を通じ形成されていたことの一つの現れであると考えている．

また，地質科学科2年生研究室主催（他の学生，教職員，OBはサポート）で，毎年子供たちを対象にした地学ハイキングが実施されており，今回のイベントで活躍した学生層のすべてがこの活動を経験している．こうした経験も当日の運営に大きく役立っていた．

このように今回のイベントの成功は，一過性の活動ではなく，恒常的な活動がベースとなっている．今後，恒常的に地質学の普及活動を行う上でも，常日頃からの活動が重要と考えている．

OHKOUCHI Makoto (2009)：Student power for "Geology Day".

＜受付：2008年12月3日＞